令和４年度　県立高梁高等学校　学校評価書

校長　丸山　　浩

1　自己評価

Ⅰ　評価結果

（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

○「開かれた学校づくり、信頼される学校づくり」について

総務企画課・家政科・生徒会を中心に、公式 SNS を活用し積極的な情報発信を行った。市内中学校３年生を対象に公式 SNS に関するアンケート調査を実施（６月・11 月）。中学校での学校説明会やオープンスクール等を利用して周知に努めた。結果、認知度アップにつながり（30 %弱→ 70 %超）、昨年度の課題は解消されつつある。今後は、配信内容の工夫・精選等に取り組み、より魅力的な情報発信を検討していくことが求められる。また、市広報誌や地元ケーブルテレビへの積極的な情報提供を継続し、学校教育活動の具体の周知に努めることも必要である。

○「地域と連携した課題解決学習（PBL）の充実」について

今年度から１年次では学習用教材を導入し、探究活動を進める上でのスキルを身につけさせることに努めた。また、学校連携コーディネーターの協力を得て、探究活動サポーターとして複数の地域人材を招聘することも実現でき、生徒が地域課題を身近なものとして捉え、地域と協働しながら探究活動に取り組める体制が整備された。２年次でも、地域との連携が強化され、探究成果を地域に提案することのできるグループも複数見られた。今後の課題としては、外部発信に係る生徒のプレゼンテーションスキルの向上、活動評価、進路指導との連携の深化が挙げられる。

○「スクール・ポリシーに基づく教育活動の推進」について

PTA・学校評議員等の協力・助言を得て策定した「スクール・ポリシー」に基づき、教育活動を実施した。学校行事、学習活動、部活動等の様々な場面における力の伸長に関して、教職員・生徒を対象にアンケートを行い、それぞれの立場から学校教育活動の諸場面で「スクール・ポリシー」に謳う「７つの力」がどの程度身についているかを調査した。教職員・生徒ともに、学校教育活動を通じて概ね力が伸長していると回答しているが、どのような取組によって、どのようなことができるようになったのか等、回答内容の具体を把握する方策については、検討の余地がある。

○「学習評価（観点別評価）の工夫・改善」について

今年度１年次生から新学習指導要領施行となり、学習評価の観点が４観点から３観点となることを受け、校内評価基準の確定を目標として取り組んだ。教務課が中心となり、各教科がこれまで実施してきた評価を尊重しつつ、教科特性も考慮した。教科主任対象研修会・各教科会議での検討を経て、観点別評価と５段階評定とを連関させた評価について校内基準を策定した。今後は、継続した取組により、教員一人ひとりが評価に対する認識・知識を高められるよう尽力していくことが必要である。

○「働き方改革の推進」について

今年度から、部活動指導員の配置（男子ソフトボール部）により、従来教員があたっていた業務が代替されることとなった。また、デジタル採点システムの試行、新連絡システムの導入等も実施し、時間外在校時間の削減につなげている。一方で、全体的な残業時間減少は図られているものの、業務の集中に伴う個人レベルの労働時間超過は常態化しており、今後も校務分掌等の組織改編の推進を含めた改善への努力が必要である。

2　学校関係者評価委員名

河村　顕治（吉備国際大学）　　秦　範吉（同窓会関係者）　　竹谷　義宏（ＰＴＡ会長）
福原　洋子（学校連携コーディネーター）　　安田　隆人（学校連携コーディネーター）

3　学校関係者評価

学校経営計画に沿って、概ね順調に学校運営がなされている。学校評価書も適切であった。評価委員の意見としては、全県的な入学予定者減少に伴う生徒募集を鑑み、学校の魅力発信への注力、公式 SNS をはじめとしたメディアの積極的な活用、中学校との連携、地域との協働推進をとの要望が出された。

4　来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

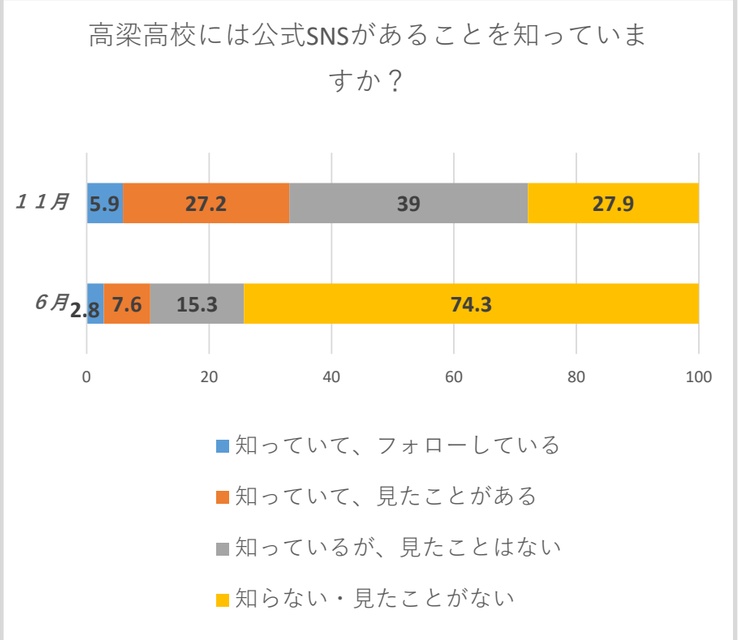
今年度の学校評価を受け、来年度に向けて、開かれた学校づくり、魅力発信に引き続き取り組むとともに、一層の魅力づくりに尽力したい。具体的方策としては、安定した国公立大学合格率、家庭科技術検定「四冠王」輩出実績等の魅力の効果的な発信の工夫（手段・時宜等）、地域との協働推進による総合的な探究の時間の充実に取り組む。また、学校課題である生徒募集、働き方改革等にも注力し、地域の期待に応える学校づくりを推進していく。

令和４年度　具体的な学校経営計画

１　開かれた学校づくり

岡山県立高梁高等学校　　No.１

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
学校の魅力 ① 発信(生徒募集)	総務 企画課	①進学を検討している中学生を対象として、時機を適切にとらえた発信をするために、HP・SNSの定期的な更新を行う。 ②各種講習会や研修会に参加し、広報技術の向上に努める。	①６月・10月に中学生を対象として広報に関する調査を実施し、本校SNS等の認知度についての回答が A:30%増加している　　B:10%増加している ②講習会・研修会への参加が A:２回以上　　B:１回以上	・6月の中学生対象アンケートの結果、公式SNSについては20%程度の認知度であることがわかった。中学校対象説明会・オープンスクール等の機会を捉え周知に努めている。 ・9/5現在のHPの更新回数は22回、公式SNSの更新回数は84回（ｲﾝｽﾀ）・49回（Fb）であり、着実な広報活動を展開している。	B	B	・中学生対象第２回アンケートの結果、公式SNSの知名度は25.7%→72.1%に上昇しており、時機を捉えた広報活動の奏功があったと考えられる。今後は、中学生やその保護者のニーズを踏まえた内容・発信の時期等を検討しながら、閲覧数増を目指していく。 ・インスタグラム講習会、広報担当者研修会への参加に加え、SNS発信ではサムネイルを開始して、より注目される発信について工夫している。	A	A
	家政科	ホームページやブログ等を利用し、家政科の生徒の魅力を発信する。	A：生徒の魅力発信に繋がる取り組みができた。 B：ホームページやブロクの内容を生徒が考えて発信できた。 生徒アンケートを実施し肯定的な回答群の割合 Ａ：80%以上　　Ｂ：60%以上	今年度初めて、生徒が撮影した日常の写真をブログにあげる流れを生徒に提示することで、数件ではあるが生徒が撮影した写真をブログにあげることができた。	B		生徒アンケートにおいて「ホームページやブログ等を利用して、家政科の良さを伝えることができた」「思う」「だいたい思う」 １年次９５％　２年次９５％　３年次９７％ 全体　９６．３％	A	

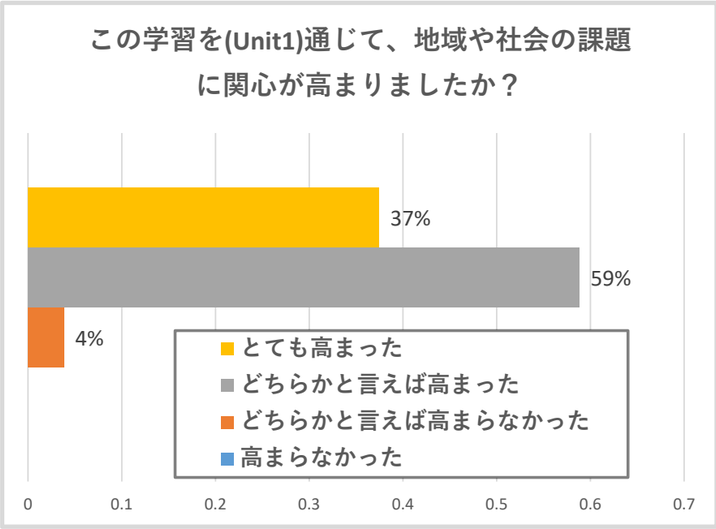


単位　％	６月	１１月	6月→11月増減	6月累積度数	11月累積度数	
知っていて、フォローしている	2.8	5.9	3.1	2.8	5.9	← フォーロしている
知っていて、見たことがある	7.6	27.2	19.6	10.4	33.1	← 見たことがある
知っているが、見たことはない	15.3	39.0	23.7	25.7	72.1	← 存在は知っている
知らない・見たことがない	74.3	27.9	▲46.4	100	100	

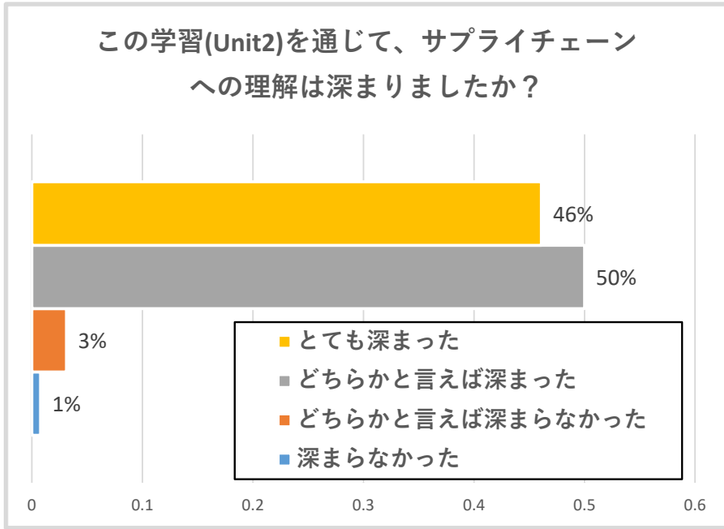
２　方谷学の深化

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
② 社会・企業・学問のつながりを意識した取組の推進	1年次 総務企画課	locusのプログラムを活用した総合的な探究の時間を展開することを通じて、日住生活と社会課題の繋がりについて学ぶとともに、探究活動を進める上で必要な力を身につける。	生徒を対象にlocusの学び・探究活動に関するアンケートを実施し、肯定的な回答群の割合 Ａ：80%以上　　Ｂ：60%以上	・各コンテンツにおける生徒アンケートにおいて、肯定的な回答が８０％以上。今後は、生徒のみならず教員に対するアンケートを実施し、指導内容の最適化を計っていきたい。	A	B	・locusに関するアンケート結果：幅広い視点で考える力，課題を特定し解決策を考える力，情報を集め、考え、表現する力，協働し学習に取り組む力，それぞれの項目において肯定的な回答が90％以上であった。今後の活動とのリンクも考え、指導していきたい。	A	A
				・方谷学打合せは定期的に実施され、１年次総探の進捗状況は共有されている。 また、年次からの疑問点・要望等の吸い上げも円滑に行われている。	B		・年次からの要望に応えながら、地域人材の活用による生徒の地域理解の促進を図ることができた。また、探究サポーターの増員が叶い、２年次のフィールドワークに向けて綿密な計画立案、具体的な方策の検討と併行し、１年次生の１月期の活動から支援に入っていただいている。	A	
③ 地域と連携した問題解決型学習（ＰＢＬ）の充実	2年次 総務企画課	興味・関心を踏まえて地域・社会の課題について主体的に探究し、解決策を提案するなど、探究活動で培った力を自らの進路実現に活用できる生徒を育成する。 学校連携コーディネーターと協力し、生徒が地域諸機関や人材と協働する探究活動に取り組める仕組みづくりの充実を図る。また、プレゼンテーションをはじめとする生徒の発信力の向上を目指し、探究成果の外部発信を促進する。	生徒を対象にルーブリックによる自己評価アンケートを実施し、肯定的回答群の割合 Ａ：90%　　Ｂ：80%	・コーディネーターとの連携により、地域と繋がりながら探究活動に取り組めている。 ・中間期アンケートでは、91.6％の生徒が自身の探究活動を肯定的に評価している。	A	B	・活動評価（ルーブリック）をもとにしたアンケートでは、「思考力」「協働力」で90％超の肯定的回答が得られ、「計画力」「実行力」でもともに70％超の肯定的回答とともに、「目標を設定し行動する力が身についた」「いつもより自分から行動できた」等自己変容を体感した回答が見られた。	A	A
				・方谷学係打合せを定例で実施することを通して、係が進捗状況を把握することが可能となった。年次団教員への指導計画の浸透も順調であり、活動のまとめ、発表に向けて円滑に取り組めている。コーディネーターとの連携も円滑に行われている。	B		・地域と協働する探究活動が円滑に進められ、商店街活性化等生徒の視点から考えられた方策の実践が複数見られた。また、外部発表にも前年度実績と同等数が参加でき、生徒の学びを拡げる一助となっている。探究方策の検討やまとめ方、プレゼンテーションスキルの向上を次の目標としたい。	A	

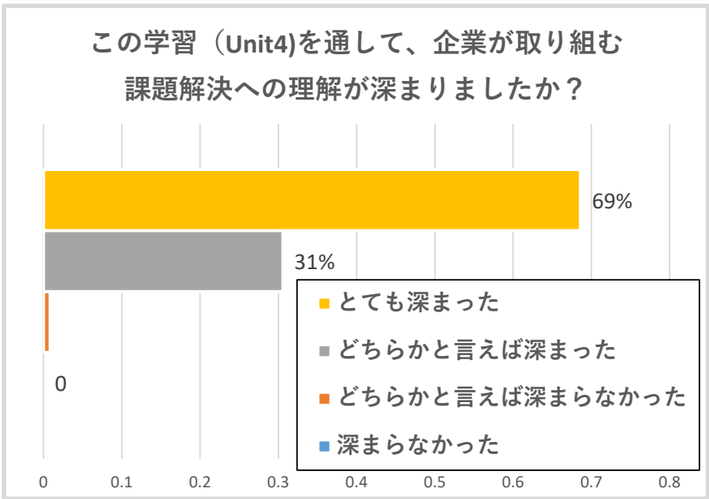
②社会・企業・学問のつながりを意識した取組の推進



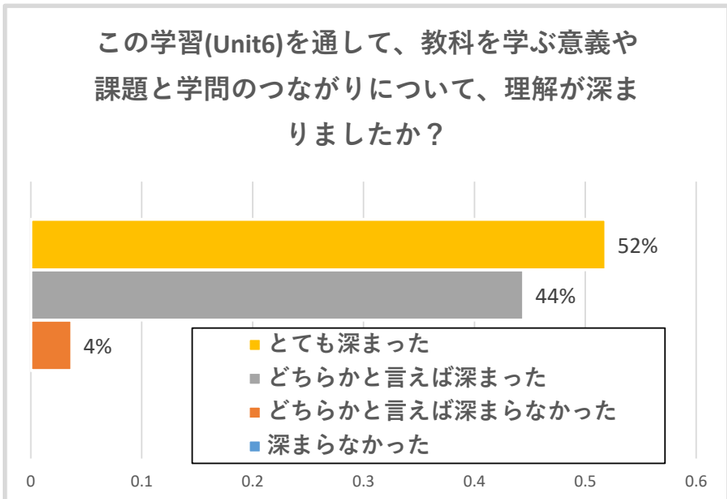
なぜ「地域」を学ぶ必要があるのか



なぜ「サプライチェーン」を学ぶ必要があるのか

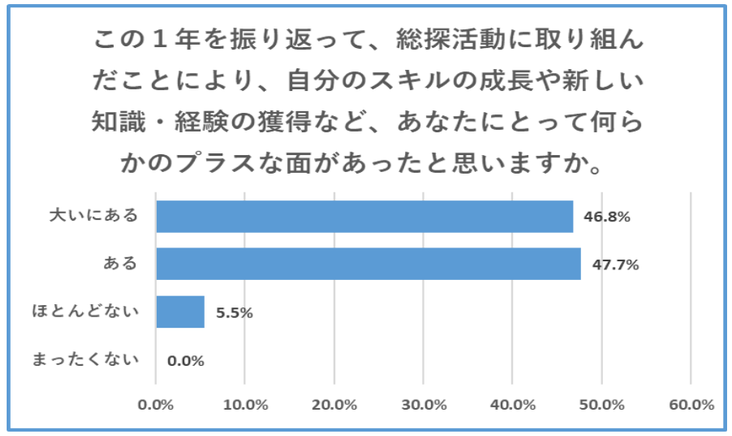


６Ｑｓ　どうすれば地域を元気にできるのか
さまざまな人々が生きる地域であるために何が必要か
どうすれば人々の人生がもとお充実するだろうか
暮らしや仕事を支えるためにはどのような技術が必要か
健康で安全な暮らしを実現するには何が必要か
どうすれば「持続可能な社会」を実現できるのか



教科の学びを実社会の課題解決と結びつける

③地域と連携した問題解決型学習（ＰＢＬ）の充実



生徒用自己評価シート

	思　考　力		計　画　力		実　行　力		協　働　力
4	物事の背景や社会状況を、課題を見つけようと関心を持ってとらえ、多面的に考えて自分なりの考えをまとめることができた。	4	自分で考えた疑問や課題に関する情報を集め、必要なものを抽出・整理して、先を見通しながら計画し活動することができた。	4	計画に基づき率先して活動を進め、疑問や課題について対話を重ねて意見のすり合わせを行いながら探究活動に取り組むことができた。	4	自ら積極的に得意なこと・できることで活動に貢献しようとし、他者とも協力しながら探究活動を活発化させることができた。
3	物事の背景や社会状況の未知なものに対しても関心を持ち、課題が何であるか自分なりに考えることができた。	3	自分で考えた疑問や課題に関する情報を集めて、比較・検証しながら取り入れ、探究活動を計画することができた。	3	計画に基づいて活動を進め、グループ内で意見交換を活発に行いながら探究活動に取り組むことができた。	3	自分の得意なこと・できることで活動に貢献しようとし、他者とも協力して探究活動に取り組むことができた。
2	物事の背景や社会の状況を知ろうとし、関心を持ったものを取り上げて、自分なりに課題を考えることができた。	2	自分で考えた疑問や課題に関する情報を集めることができ、それらを活用しながら探究活動を計画することができた。	2	計画に基づいて活動を進めようと努力し、グループ内で出し合った意見を探究活動に役立てることができた。	2	促されると自分の得意なこと・できることで活動に参加することができ、他者とも協力して探究活動に取り組むことができた。
1	物事の背景や社会の状況について関心が低く、課題について考える際にも他者の意見を受け入れることが多かった。	1	探究活動を進める上でどのような情報が必要かを考え、集めて、活動計画の決定に取り入れることができた。	1	計画に基づき活動を進めたが、グループ内での意見交換は消極的で、探究活動を円滑に進めることが難しい時があった。	1	活動への参加態度が消極的で、他者とのコミュニケーション機会も少なく、まとまりのあるグループとしての活動が難しかった。

３　スクールポリシーに基づく教育活動の推進

岡山県立高梁高等学校　　No.４

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			才数達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
④ 資質・能力の育成を意識した教科指導、学校行事	生徒課	生徒会執行部を中心に生徒会活動（学校行事・各種委員会活動等）を活発に行う。 部活動については、部顧問会議等を通じて活発化への働きかけを行うとともに、環境整備を行う。	学校行事と部活動・生徒会活動で「協働する力」「受容する力・対話する力」が伸びたと実感した生徒の割合 A:70%　　B:50%	今年度の松籟祭もコロナ禍でいろいろと制限があったにもかかわらず、生徒満足度は90.5％と高い結果となっている。 「協働する力」「受容する力・対話する力」については、年度末にアンケートを行う予定である。現時点で、コロナ禍で生徒の活動がなかなか厳しい状況であるものの生徒会執行部を中心に活発に活動できていると考える。	B	B	今年度の松籟祭もコロナ禍や台風などで予定が変更される中、生徒職員が一体となり実施することができた。生徒の満足度も90.5％と高かった。「協働する力」が部活動・生徒会活動で68.5％、学校行事で78.2％「受容する力・対話する力」が同61.9％と59.8％であった。来年度に向けて改善すべき点はあるものの概ね生徒会執行部を中心に生徒会活動（学校行事・各種委員会・部活動等）が行えたと学校自己評価アンケートの結果97%の生徒が考えている。	A	A
	家政科	家政科独自の行事や取組を、生徒主体で計画・立案し、実施していく。	家政科の行事で「高度な技術」「やり抜く力」がのびたと実感した生徒の割合 Ａ：70%　　Ｂ：50%	今年度新たに６月に家政科独自の行事を行った。その企画運営を行う生徒を募り、生徒主体で３学年が交流できる家政科集会を行うことができた。	B		生徒アンケートにおいて家庭科の行事で 「高度な技術がついた」肯定的回答 １年次９０％　２年次１００％　３年次８６％ 「やり抜く力がついた」肯定的回答 １年次９０％　２年次１００％　３年次７６％	A	

【全科】　　**（単位％）**

３観点	育てたい資質・能力	場面					
		部活動・生徒会活動			学校行事		
		とても思う	まあ思う	計	とても思う	まあ思う	計
知識・技能	幅広い教養	37.8	34.2	72.0	27.5	41.5	69.0
思考・判断・表現	情報を分析し表現する力	19.2	22.5	41.7	11.3	25.5	36.8
	論理的・多面的に思考する力	16.8	20.9	37.8	8.1	20.8	28.9
	受容する力・対話する力	32.0	29.9	61.9	27.5	32.3	59.8
主体的に学びに向かう力	協働する力	41.7	26.8	68.5	43.6	34.6	78.2
	やり抜く力	39.6	23.1	62.8	28.6	25.7	54.4

４　新学習指導要領の着実な実施

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑤ 学習評価（観点別評価）の工夫・改善	教務課	観点別評価についての校内研修会を実施し、 情報の共有を図る。	各教科の学習評価の工夫・改善の取組について調査し、 A:各教科で新教育課程に応じた学習評価について工夫・改善ができた。 B:各教科で研修を実施し、新教育課程に応じた学習評価に全員で取り組んだ。	教科主任もしくは１年次各教科担当で集まるワーキンググループを行い観点別評価についての研修会を行った。研究会の内容を教科に持ち帰り、検討することを繰り返し、学習評価について理解が深まった。今後は、年度末の評価と評定の総括について共通認識できるように研修を行う。	B	B	観点別学修評価について各教科で研修を行い、各教科・科目の特質に応じた方法・基準の工夫を行うことができた。 また、年度末の５段階評定を総括について学校全体の判断基準を定めることができた。	A	A

５　ＩＣＴの効果的活用の促進

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑥ ＩＣＴを活用した効果的な教科指導と評価	指導教諭	生徒の学びを深めるＩＣＴ機器を活用した授業促進のために、教員のニーズに応える研修等を積極的に行い、ICT活用力の向上に努める。	「端末を活用して学びを蓄積し、振り返る活動を設定していますか」の質問に対する肯定的な回答群の割合 A：65%　　B：50% 「端末を活用して考えなどを共有しながら学び合う活動を設定していますか」の質問に対する肯定的な回答群の割合 A：70%　　B：55%	「１人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート(第１回)」の集計結果は、「端末を活用して学びを蓄積し、振り返る活動を設定していますか」の肯定的回答の割合は65.8%(参考：岡山県全体42.4%)であった。また、「端末を活用して考えなどを共有しながら学び合う活動を設定していますか」の肯定的回答割合は56.4%(参考：岡山県全体41.7%)であった。今後も研修会を継続し、活用力向上を図る。	B	B	「１人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート(第２回)」の集計結果は、「端末を活用して学びを蓄積し、振り返る活動を設定していますか」の肯定的回答の割合は60.0%(参考：岡山県全体47.3%)「端末を活用して考えなどを共有しながら学び合う活動を設定していますか」の肯定的回答割合は60.0%(参考：岡山県全体47.3%)であった。	B	B
	情報推進室	ICT環境の整備だけでなく、マニュアル等の作成を行い、ICT活用研修を実施する。	ＩＣＴを活用した授業を行うことができる教員の割合 Ａ：中間期75%　年度末90%　以上 Ｂ：中間期60%　年度末80%　以上	７月に実施した１人１台端末活用アンケートによると、「端末を活用して連絡事項や学習内容を示すことができますか。」できる87.5%(県平均67.4%)、「小テストや課題を提示・回収することができる」できる65.0%(県平均49.5%)、「オンラインで学習指導を行うことができる」できる70.0%(県平均50.3%)であった。	B		12月に実施した１人１台端末活用アンケートによると、「端末を活用して連絡事項や学習内容を示すことができますか。」できる85.7%(県平均72.0%)、「小テストや課題を提示・回収することができる」できる69.0%(県平均56.4%)、「オンラインで学習指導を行うことができる」できる76.2%(県平均59.0%)であった。	B	

○生徒が端末を活用して学びを蓄積し、振り返る活動をしていますか。(%)

【第１回】

	よくある	たまにある	めったにない	ない
県全体	13.7	28.7	29.2	28.4
高梁高校	**18.4**	**47.4**	**28.9**	**5.3**

【第２回】

	よくある	たまにある	めったにない	ない
県全体	12.4	34.9	26.9	25.9
高梁高校	**15.0**	**45.0**	**25.0**	**15.0**

○生徒が端末を活用して考えなどを共有しながら学び合う活動を設定していますか。(%)

【第１回】

	よくある	たまにある	めったにない	ない
県全体	10.7	31.0	29.4	28.9
高梁高校	**23.1**	**33.3**	**41.0**	**2.6**

【第２回】

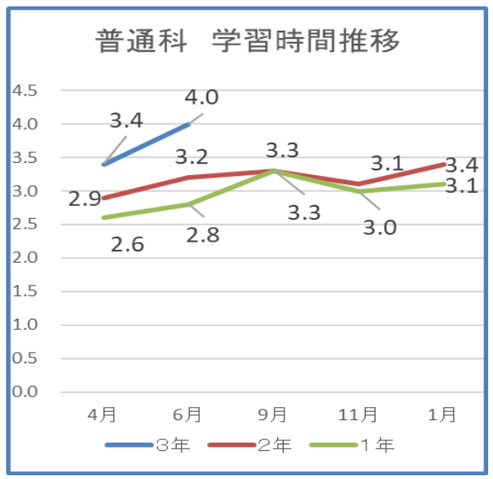
	よくある	たまにある	めったにない	ない
県全体	12.4	34.9	26.9	25.9
高梁高校	**15.0**	**45.0**	**25.0**	**15.0**

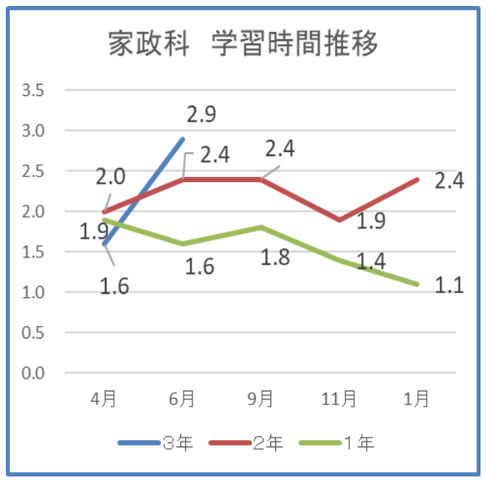
６　望ましい学習習慣、生活習慣の形成

岡山県立高梁高等学校　　No.６

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑦ 学習習慣の定着と学習時間の伸長	進路課 各年次	各年次においては、担任面談や年次集会等を通じて、学習習慣の定着を図るとともに、積極的な自主課題への取組等を促進して学習時間の伸長につなげる。 進路課においては、各年次主任・クラス担任と連携し、面談等を活用して放課後時間の充実を目指した指導を図る。また、デジタルコンテンツと共存しながら、適正な課題の提示や個別最適化した学びの促進に努める。	学習実態調査の結果 Ａ：１・２年次普通科 3.5時間 ３年次普通科 4.0時間 全年次家政科 2.5時間 または、年度当初との比較で0.5時間の学習時間の伸長 Ｂ：１・２年次普通科 3.0時間 ３年次普通科 3.5時間 全年次家政科 2.0時間 または、年度当初との比較で0.3時間の学習時間の伸長	生徒自身が放課後時間の活用自体を振り返ることができるような資料を、各年次の進路課教員が中心となって作成し、クラス担任はその資料を使いながら個々の生徒に応じて必要な支援をしてきた。その結果、平均0.3時間程度の学習時間の伸長が見られた。 １家（1.9h → 1.8h）　２家（2.0h → 2.4h） ３家（1.6h → 2.9h）　１普（2.6h → 3.3h） ２普（2.9h → 3.3h）　３普（3.4h → 4.0h） 個別最適化した学びに向けて家庭学習の質的向上は継続して課題となっているため、教科担当者との連携を図りたい。	B	B	１家（1.9h → 1.1h）　２家（2.0h → 2.4h） ３家（1.6h → 2.9h）　１普（2.6h → 3.1h） ２普（2.9h → 3.4h）　３普（3.4h → 4.0h） 各年次で進路課を中心に時宜を得て生徒に学習状況、進路に有益な情報を提供してきた。学習時間はA基準に届かなかったが、およそ平均0.5時間伸長し、学習習慣の確立や意識の高揚にはつながった。今後の課題としては、放課後時間の質的向上に向けた指示の徹底、教員間でのベクトル合わせが挙げられる。	B	B
⑧ 挨拶、清掃に対する意識の向上	生徒課 各年次	各年次教員による声かけや生徒会を中心とした挨拶運動等を通じて、挨拶に対する生徒の意識向上を図る。	生徒対象のアンケートの実施により、挨拶に対する意識が向上したと考える生徒の回答群の割合 Ａ：90%　　Ｂ：70%	生徒会を中心とした挨拶運動は予定通り行えている。生徒アンケートは年度末に実施する予定。	B	B	生徒会を中心とした挨拶運動は毎週忘れることなく予定通り行うことができた。 生徒アンケートにより「挨拶に対する意識が向上したと考える生徒の割合は82.1%であった。	B	B
	厚生環境課 各年次	教員が声をかけ自ら動く姿勢を見せることにより、生徒の清掃への意識向上を目指す。 美化委員会の校内放送による呼びかけを通じて、清掃等校内美化への啓発を図る。	生徒･教員対象のアンケートを実施し、「清掃時間の予鈴の合図により、清掃場所へ移動し清掃活動に取りかかっている」という項目の、肯定的回答群の割合 Ａ：90%　　Ｂ：70%	9月に生徒アンケートを実施、「3分前に移動できている」80.1%、「古紙の整理ができている」71.9%、「ペットボトルの分別ができている」96.6%、「美化意識を高める行動ができている」80.5%で、清掃活動への取り組みはしっかりできている。	B		1月に2回目の生徒アンケートを実施、「3分前に移動できている」85.7%、「古紙の整理ができている」80.4%、「ペットボトルの分熱ができている」97.7%「美化意識を高める行動ができている」86.5%という結果。前回より良い結果であり、美化意識は定着してきている。	B	

⑦学習習慣の定着と学習時間の伸長





		基準 A	基準 B
学習時間時間数	普通科　１・２年	3.5h	3.0h
	普通科　３年	4.0h	3.5h
	家政科　１・２年	2.5h	2.0h
	家政科　３年	2.5h	2.0h

普１	普２	普３	家１	家２	家３
B	B				
		A			
			C	B	
					A

		基準 A	基準 B
伸びた時間	全学科　全年次	+0.5h	+0.3h

普１	普２	普３	家１	家２	家３
0.7	0.5	0.6	▲0.8	0.4	1.0
A	A	A	C	B	A

普１	普２	普３	家１	家２	家３
AB	BA	AA	CC	BB	AA
B	**B**	**A**	**C**	**B**	**A**

7　働き方改革の推進

岡山県立高梁高等学校　　No. 7

本年度の重点目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間達成状況と評価			最終達成状況と評価		
				達成状況	評価		達成状況	評価	
⑨ 業務の平準化と時間外業務時間の削減	管理職	・適切に勤務時間や個々の業務量を把握する。 ・校務分掌や学校行事、日常業務を見直す。 ・校務のＩＣＴ化の推進を図る。 ・時間外在校等時間が多い教員には個別に聞き取りを行い、平準化を図る。	○4月から12月までの月当たり時間外在校等時間について、昨年度実績38.6時間から削減する。 Ａ：36.6時間未満（５％以上削減） Ｂ：37.5時間未満（３％以上削減） ○4月から12月までの時間外在校時間等累計が550時間を越える教員数（昨年度3人）の削減する。 Ａ：0人　Ｂ：2人	○4月から８月までの月当たり時間外在校等時間について 37.7時間（昨年同時期38.6時間 対比▲2.4%） ○4月から８月までの時間外在校時間等累計が305時間を越える教員数 ６人 ○現在、ブラウザ型採点支援システム「百問繚乱」の試行を進めている。	C	C	○12月までの月当たり時間外在校等時間38.1時間（昨年同時期38.6時間 対比▲1.3%） ○時間外在校時間等累計が550時間を越える教員数 ４人 ○第4回考査において採点支援システム「百問繚乱」を全員で行った。効果があるとの声が多く、他校からの視察も複数あった。 ○欠席連絡受付やメール送受信が簡単にできるシステム「校支援」を導入し、さらなる業務改善に取り組んでいる。	C	C